

平成27年度 自己評価書

| | |
|------|--------------|
| 学校名 | 和歌山市立 直川 小学校 |
| 校長氏名 | 吉 森 秀 和 |
| 作成日 | 平成 28年 2月 5日 |

1 教育目標

人間として生きるよろこびを感じ、たくましく、ゆたかに、未来をひらく子どもを育成する。

2 本年度の取組についての評価

| | 開かれた学校 | ゆたかな心 | 確かな学力 |
|---------|--|--|--|
| 重点目標【P】 | ○保護者・地域住民から信頼される魅力ある学校づくりに努める。 ・地域に根ざした学校をめざす。 ・学校教育活動等について情報を発信し、学校・互育会・地域行事を通して、相互の距離感を短くし、「子ども」を中心に据えた開かれた学校に取組む。 | ○心の教育の充実を図る。 ・豊かな感性を育てるとともになかよく支え合う学級集団づくりをめざす。 ・自己肯定感が持てる場を設定していくとともに自尊感情を高揚させ、正しい人権意識を育てる。 ・自立と共生のためのコミュニケーション力を育成する。 | ○基礎学力の充実と向上を図る。 ・正しく、ゆたかな「ことばの力」を育てる。 ・各教科に問題解決学習を取り入れ、個に応じたきめ細やかな指導を行う。 ・先行資料だけでなく、先進校の研究会に参加し研修を深め、積極的な講師の招へいも行う。 |

| | | | |
|-----------------|--|--|--|
| 取組の状況【D】 | ○学校便り等を活用し、保護者や地域住民に対し、教育活動の情報発信を行った。 ○学校行事に各種団体や地域ボランティア（老人会・婦人会・地域安全推進委員・東署等）の協力を得て、児童とともに活動した。 ○互育会・地域行事への積極的な関わりが定着してきた。 | ○児童会が中心となり、「休憩時間の安全・生活放送運動」を展開した。 ○読み物資料を中心に道徳的判断力や実践力を付ける授業に取組んだ。また、家庭でも学べる機会を設けた。 ○各種大会を通して、し続けるよさや自己達成感を持たせた。 | ○「朝読」「家読」だけでなく、休憩時に図書室を開放し、読書の定着に力を入れた。 ○問題解決学習をすることで、言語活動の充実に努めた。 ○「直川タイム」の時間を充実させて、学力向上に取り組んだ。 |
| 取組の成果と課題【C】 | ○保護者は、学校教育に関心が高く、教育活動・学校行事にも熱心である。保護者アンケートで、教育活動の満足度が90%近くになったことは、喜ばしいことである。 ○教育活動を通して、保護者・地域との信頼関係が築かれていると認められてはいるが、更に児童を核にした学校への関わりを深めたい。 | ○アンケートで92.2%の児童が「学校が楽しい」と答えてくれた。子どもたちに充実感・満足感を感じさせる学校・学級づくりが一定の評価を得たと考えている。 ○「休憩時間の安全・生活放送運動」は、学校生活にとって大切なので、続けていきたい。 | ○授業で「聞く」場や「話し合う」場が設定されていた。ただ、何を聴き取るのかや上手く伝える方法等、今後の課題である。 ○課題提示には、もう少し工夫やメリハリがほしい。 ○家庭での自学自習は、定着だけでなく未習事項を含む探究的な家庭学習も必要としたい。 |
| 次年度に向けての改善方法【A】 | ○今後も保護者・地域との信頼関係をより厚いものにした。「学校の出来事をよく話す」の項目の数値を上げるためにも、家庭学習を含めた教育方針・教育活動を伝える機会を増やしたい。 | ○あいさつ・掃除等は、社会生活を営む上でも基本であるので、保護者を巻き込んだ取組にしていきたい。 ○し続けることで、自分に価値と自信を持たせ、自尊感情の高揚に結び付けるとともに、道徳的判断力・実践力を身に付けた個の確立を図りたい。 | ○「直川タイム」の検証し、目標の設定の仕方や年間計画に生かしていきたい。 ○アクティブラーニングを土台とした、授業改善を推進したい。 ○全国学力テストや県到達度テストの分析を細やかにし、個に対応していきたい。 |

3 その他の課題